



アメリカ

激しい運動時のエナジードリンク飲用は危険

●ACSM ホームページ <http://www.acsm.org/about-acsm/media-room/news-releases/2018/02/08/acsm-announces-new-recommendations-and-warnings-regarding-safety-of-energy-drinks> ほか

エナジードリンクは、ビタミンやミネラル、朝鮮人参等のほか、ガラナなどの高濃度カフェインを含む人気飲料だ。ACSM(アメリカスポーツ医学会)はこのほど、「エナジードリンクの問題点」と題する声明を出し、過剰摂取が心血管系、神経系や精神等に多大の悪影響をおよぼすことが科学的検証で明らかになったとして子どもや心血管疾患等を持つ人、妊婦・授乳婦は飲用を避けるべきと警告した。広く青少年アスリートの間で、エナジードリンクがスポーツ飲料と同様であると誤認されており、またカフェインを多く含むため運動する際にパフォーマンス向上を期待して多量摂取するケースが多いと懸念している。短時間に運動能力が増強される可能性は皆無ではないが、エナジードリンクが原因とみられる死亡者も出ており、激しい運動をする際の飲用を避け

るべきで、保護者やコーチ等は注意すべきとする。

ACSMは、①エナジードリンクは子どもが飲むことを想定した製品ではないことの周知徹底 ②子どもや青少年に向けたテレビ等での宣伝の禁止 ③健康状態にかかわらず激しい運動をする際の飲用禁止 ④いっそうのデータ収集と消費者や教育現場に向けた啓発の必要性を訴えている。

さらに、「カフェインを多く含む」「アルコールと一緒に飲まない」等の注意喚起のラベル貼付も求めている。特に医療関係者には、患者に対して必ずエナジードリンク摂取について注意喚起し、万一副作用などが発生した場合には、中毒管理センターやFDA(食品医薬品局)、CPSC(消費者製品安全委員会)などへの報告を求めており、また全国統一の様式の設定を求めている。



香港

杖の安全性をテストする

●HKCC ホームページ https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/496/elderly-walking-sticks.html ほか

杖は、多くの高齢者の歩行に不可欠だ。このほどHKCC(香港消費者委員会)は杖30銘柄(折り畳み式杖15銘柄含む)と、杖としても使用できる杖兼傘(以下、杖傘)10銘柄の安全性をテストしたところ、杖の55%、杖傘の90%に安全上の懸念がある結果となった。

テストは主に台湾の基準(CNS)と国際基準(ISO)に沿って、構造、強度、摩擦抵抗、表示、取扱説明書などを5点満点で評価した。その結果、安全性に関する項目すべてで4点以上を獲得したのは杖6銘柄、折り畳み式杖7銘柄で、杖傘は1銘柄のみだった。

杖9銘柄と杖傘8銘柄はCNSの強度テストで変形(杖傘4銘柄は完全に破壊)、11銘柄は握りと支柱の間の接合強度が不足していた。

先端のゴムに関しては、杖4銘柄と杖傘7銘柄が

ISO基準を満たしておらず、さらにCNS基準で杖傘のゴムの厚みが足りない、溝が浅い、支柱との間に座金が無い、座金下のゴムが薄い、などゴムの摩擦耐久性不足が明らかになった。また、折り畳み式杖の各支柱の重なり部分の長さについて5銘柄が基準を下回った。その他、T字型握りの上部が長過ぎるものや半円形握りのカーブ内径が小さく手に合わない可能性があった。また製品の形式・製造番号・製造年の表示方法や取扱説明書(杖14、杖傘10銘柄になかった)に改善が必要と指摘している。

HKCCは購入や使用に当たり、●長さや重量等が合うか試す ●先端のゴムの安全性を確認する ●折り畳み式は携帯には便利だが長さ調節が難しい ●使用時に長さ調節のロックを確認する ●ゴムの劣化を点検する、などをアドバイスしている。



ドイツ

健康な人には推奨できないグルテンフリー食品

- 商品テスト財団「テスト」2018年2月号 <https://www.test.de/Gluten-Wer-das-Getreide-Eiweiss-meiden-sollte-5273922-0/>
- ヘッセン消費者センター ホームページ <https://www.verbraucherzentrale.de/wissen/lebensmittel/kennzeichnung-und-inhaltsstoffe/glutenfreie-lebensmittel-boomender-markt-10939>
- 欧州委員会施行規則 828/2014 <http://eur-lex.europa.eu/legal-content/DE/TXT/PDF/?uri=CELEX:32014R0828&from=DE>

ドイツの小売店で最近目立つのが、グルテンフリーと表示された食品である。小麦粉等に水を加え、こねる過程で生成されるグルテンは、特有の粘弾性を持つたんぱく質の一種である。グルテンの摂取をやめたことで、体調が好転したという著名スポーツ選手や女優の体験談が影響したのか、グルテンフリー食品は一般消費者にも注目されている。

しかし、グルテンフリーの意味を誤解する消費者も多い。EU規則によると、グルテンフリーとは、グルテンを含まないという意味ではなく、含有量が20mg/kg未満の食品に表示できる用語である。グルテンを含む穀物から、同物質を完全に除去するのは技術的・経済的に困難なことを理由とする。そこで、グルテンを摂取したくない人は、グルテンを元々含まない米粉やキビ粉を使った商品を選ぶ方法もある

と紹介するのが、商品テスト財団等である。

もっとも、グルテン除去食は万人向けではないと忠告することも忘れない。確かに、グルテンを摂取すると小腸に炎症が起こるセリアック病患者は、厳格なグルテン除去食を続ける必要がある。また、グルテン不耐症等の症状がある人も、グルテンを抜いた食生活でようすをみるのが有効だという。一方、グルテンを普通に消化できる人がグルテン含有食品を避けると、全粒粉等を排除することになるため、栄養バランスが悪化する可能性があるという警告する。

さらに、市販のグルテンフリー食品の多くは、高脂肪・高糖分で食物繊維が少ないことも問題だという。通常品に比べると、価格が2～4倍だという調査もある。同財団等は、グルテンフリー食品のブームに、安易に乗るべきではないと結論づけている。



スイス

環境にも財布にも優しい「修理カフェ」が盛況

- 消費者保護団体連合「修理カフェ」ホームページ <https://repair-cafe.ch/de>
<https://repair-cafe.ch/de/gruenden>
- FRC ホームページ <https://www.frc.ch/dossiers/repair-cafe/>

毎日のように大量に捨てられる壊れた製品。中には、修理すれば使える物もあるが、「修理の方法が分からない」「自力で修理するのは無理」という消費者は多い。その一方で、修理技術を人のために役立てたいと考える消費者も存在する。このような消費者同士を結び付け、物を大切に作る社会に変えていこうとする取り組みが注目されている。オランダで生まれ、数年前からヨーロッパ各地に広がっている「修理カフェ」と呼ばれるイベントである。

公共施設、学校、飲食店等で定期的に行われるカフェに、壊れた家電、光学機器、玩具、衣料品等を持ち込むと、ボランティアの修理人が無料で直してくれる。もちろん、修理方法を教わりながら、一緒に直してもよい。会場には無料のケーキ、コーヒーが用意され、地元の人々と知り合えるコミュニケー

ションの場にもなっている。

複数の公用語が並存するスイスでは、各言語圏を代表する3つの消費者団体(SKS(消費者保護財団)、FRC(ロマンド消費者連盟)、ACSI(イタリア語圏スイス消費者連盟))が修理カフェの運営を支援している。自分の居住地でカフェを始めたい人には、設立方法や広報の仕方等を解説した手引きが準備されている。さらに効率的な支援のため、3団体の上部団体である消費者保護団体連合がサイトを立ち上げ、国内の修理カフェ情報を掲載している。もっとも、使い捨て社会から循環社会への転換を図るこのような試みだが、国の理解は必ずしも十分とは言えないのが現状だという。資金不足を埋めるため、サイトで寄付を募集するなど、同団体は自己資金調達に努めている。